

今回は『日本歴史災害辞典』*で「大正6年東京湾台風災害」と名付けられている台風災害についてご紹介します。大正6年(1917)9月30日、フィリピン東方で発生し東京湾から関東へ上陸した台風により高潮が発生、沿岸の市町村に大きな被害をもたらしました。昭和34年(1959)の伊勢湾台風まで、この時の最高水位が防波堤の高さの基準となるほどの大規模な災害でした。

10月7日付の東京日日新聞には、全国での死亡・行方不明者1,265名、負傷者1,155名、家屋全半潰・流失44,355戸、浸水208,977戸、船舶流失・沈没2,231艘と報じ、このうち千葉県では死者205名、負傷者225名、行方不明73名という記事が掲載されています。米の収穫は前年より約15%減少し、浦安から船橋沿岸の塩田も約146町が流失して壊滅的な被害をうけました。当時稲毛

にあった民間飛行場も被害に遭いました。台風の通過後は物価が高騰し、疫病も発生するなど、さまざまなかたちで生活への影響が続きました。また、漂流物の横領が頻発し検挙が相次いでおこなうなど、治安の悪化という問題も起きています。こうした被害に対し行政側のみならず、様々な団体による義援金や救助活動も行われました。千葉県は10月8日より罹災者へ米を給与、皇族からの義援金も被害に遭った町や村へ下賜されました。幕張小学校の罹災児童へは、職員一同より学用品が供与されています。

今年は悲しいことに、多くの台風が日本列島を直撃し、大きな被害をもたらしました。また、台風に限らず、豪雨による大きな災害も近年増加傾向にあります。常日頃から水害についても備えておきたいものです。

*『日本歴史災害辞典』(吉川弘文館、2012年)

平成30年度千葉市史主催 講座につきまして

平成30年度の市史編さん担当主催の各種講座は、募集をすべて終了いたしました。今年度も、多くの方のご応募・ご参加をいただき、誠にありがとうございました。初級古文書講座については、先日9月1日(土)をもちまして全日程を無事終えることができました。今回は、最終回のアンケートにお寄せいただきました感想をいくつかご紹介いたします。

- ▼出席するたびに脳が活性化されるような気がしました。とても勉強になりました。また受講したいです(60代・女性)
- ▼千葉市の庶民の生活が解かる資料を選んでくださり、とても興味深かったです。講師の先生もわかり易く教えて頂いて楽しかったです(ユーモアのある方です)。又、講座がある様でしたら参加したいです。でも未々読めません。勉強不足でした(60代・女性)
- ▼初めての参加、また、このような古文書を読んだことが無かった為、先生のお話しについていくのに必死でした。初級よりも、もう少し、易しい内容の講座があればありがたいです。また、なかなか古文書を学ぶところは無いので、ひきつづき学んでいきたいと思いました(20代・女性)
- ▼何度か応募して、今年度やっと受講することができました。初日にテキストを見た時は絶望的な気持ちになり

ましたが、「全部読めなくとも良いので、これだけは覚えてほしい」との言葉で救われました。今でも一行の文字数が判らないこともたびたびですが、読める文字が少しずつ増えてきて、古文書を読む楽しさがわかったように思います(60代・男性)

▼事情あって2回欠席。補講があったらと思う。ムシがいとは思いますが(70代・男性)

▼先生もベテランで教え上手。たくさんこういう機会を設けて欲しい。多謝!(70代・男性)

▼昨年受講させていただき、千葉古文書の会に入会し、10月で1年になります。会員の人に付いて行くのが精一杯。でも3年間はがんばりたいと思います。この頃は古文書を勉強する楽しさもちょっぴりわかるようになりました。友人もかなり出来ました。ありがとうございます(70代・男性)

ご受講、そしてアンケートへのご協力、本当にありがとうございました。古文書だけでなく、人との出会いも増える、よい体験をしていただけたようで何よりです。本講座によって古文書に対するハードルが、少しでも低くなれば幸いです。さまざまなご要望につきましては、引き続き検討していきたいと思ひます。

千葉市立郷土博物館は

Twitterをはじめました☆
@chibashikyodo

市史のさまざまな活動もご紹介していきます。HPもぜひご覧ください!!

千葉市立郷土博物館

検索

CLICK!



11月3日・4日は
加曾利貝塚博物館で
縄文秋まつり♪

来てね!!

加曾利貝塚 PR 大使
かそいーぬ



ちば市史編さん便り 21号 Chiba-shishi News Letter No.21

発行日 2018年9月30日
編集・発行 千葉市立郷土博物館 市史編さん担当
〒260-0856 千葉市中央区亥鼻 1-6-1



編さん便り

Chiba-shishi News Letter NO.21 2018.9

平成30年新収蔵史料のご紹介 ～新しい“なかま”をご紹介します～

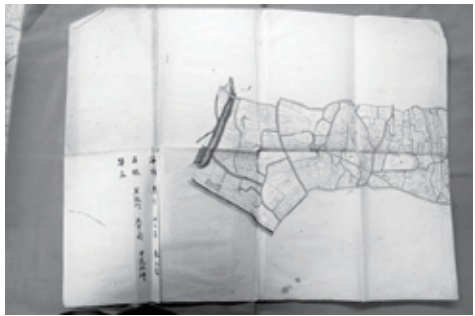
平成30年3月、千葉市の近現代史に関わる、写真類や地図などのご寄贈を受けました。

ご寄贈いただきました資料は38点。千葉郡更科村大字中田の土地一筆限図と、それに関連すると思われる地番割図、千葉医科大学の卒業アルバム(昭和15年<1940>のもの)、千葉医学専門学校や千葉高等女学校(現在の千葉大学医学部・千葉女子高等学校)などの台紙付きの大きな集合写真、千葉神社の祭礼時の記念写真、吾妻橋の工事などの記録・記念写真です。

いずれの写真も、千葉市の近代から現代を考えるうえで、とても貴重なものです。特に、工事を進めている最中の記録写真には、当時の街並みも写っており、「町」の記録としても重要なものです。

年代や場所の比定が済んでいないものもありますが、今後更に調査を進めていくことで、より一層千葉市の近現代史を明らかにしていければと思います。

改めまして、心より御礼申し上げます。



地番割図(一部)



集合写真



工事の記録写真



千葉医科大学卒業アルバムと正門・全景



『千葉市史』編さんのため、古い資料・昔の写真などの情報を集めています。ご家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の「千葉」をみることで貴重な資料です。いわゆる「古文書」も大歓迎です。聞き取り調査も行いたいと思ひています。戦時中の体験、幼い頃の記憶など、千葉市域に関するお話いただける方がおられましたら、ご連絡ください。ご提供頂いた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮致します。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

資料、
求め。

今夏、近畿地方に大きな被害をもたらした台風21号をはじめ、9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震など、さまざまな災害におきまして被害に遭われた方々へ、謹んでお見舞いを申し上げます。いまだ避難生活を送られている皆さまにおかれましては、本当に大変なこととは存じますが、一日も早く日常生活が取り戻せますよう、心よりお祈り申し上げます。(市史編さん担当)

あれから70年

千葉市の戦後 70 年を考える —故松本貞雄氏の資料から 戦時下の町内会事情（3） 金属供出

着々とせまる 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（「ちば市史編さん便り」17 号で前回の東京オリンピックのお話を掲載しました。ご参考までに…）。この大会の入賞メダル作成にあたり、不要になった小型家電（パソコンやデジカメ、スマートフォンなど）に含まれるリサイクル材の回収が始まっています。千葉市もこの活動に参加、ボックスでの回収が始まっており、今後のリサイクル活動促進につながる、意識改革に一役買うことも期待できる活動が進められています。

さて、若干無理矢理ではありますが、「金属を集める」というところから、今回の「戦時下の町内会事情」は戦時中の金属供出の話のみてみましょう。

はじめにおおまかな流れを押さえておきましょう。

昭和 13 年（1938）、輸出不振・外貨不足によって日本銀行の金準備が底をつき、金の買上げ運動が展開されました。同年 5 月より始まった大阪毎日新聞や東京日日新聞によるキャンペーン「愛国金献運動」を契機に、政府によって半強制的に進められた金の買上げ運動により、民間からも多くの金が回収されたとされています。

一方、昭和 16 年 (1941)8 月 30 日、戦局の悪化・武器生産に必要な金属類の不足を補うという目的で、官民所有の金属回収を行う「金属類回収令」が公布されました（29 日付勅令第 835 号「朕金属類回収令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム」との御名御璽、同 18 年には全面改正）。国家総動員審議会に対する諮問第 53 号「金属類ノ特別回収ニ関スル勅令案要綱」第一では、回収する金属を「…鉄又ハ銅若ハ黄銅、青銅其ノ他ノ銅合金ヲ主タル材料トスル物件」としています。この勅令は内地では昭和 16 年 9 月 1 日より、外地の朝鮮・台湾・樺太・南洋群島では同年 10 月 1 日より施行されました。同年 4 月 23 日付の『写真週報』には「掘り出せ街の鉱脈を事務所でお店で家庭でも」と題しドイツやイギリス、イタリアなど各国の金属供出の様子を紹介、供出を呼びかける記事が 8 ページにわたり掲載されました。記事の冒頭では、「戦時下に必要な金属資源の確保」のためとして「一家庭一足の割合で足袋のコハゼを集めても全国では一万二千貫の真鍮となり、立派に国家のお役に立つ」など家庭からも多く供出をするよう呼びかけています。

また、金属回収令公布前より「国民精神総動員運動」の一環として廃品回収も各種団体や学童により取り組まれていました。公布以後は、半強制的な「特別回収」として企業や一般家庭からの回収が行われていきます。一般家庭では、町内会などにより回収が行われました。

さて、こうした一連の出来事に関わる町内会の回覧などを、いくつか故松本貞雄氏の資料* からご紹介します。

まずは金の政府への売出しについて。金所有高の調査を行い、申告書を提出させたり、千葉県や市から「金の飾りは銃後の恥」「金を政府へ売りませう 金なき千葉市を建設しませう」などのスローガンのもと、金の売出しを勧める文書が、たびたび回覧されていました。

次の写真は、「補助貨引換に就て」というもの。「航空機、軍艦、弾丸などの兵器資材として」銅やニッケル類を補給するため、アルミ貨以外の回収を強化するとし、具体的に写真入りで解説したものが回覧されています。アルミ貨以外は、少額紙幣や銀行券と引き換えができました。



「補助貨引換に就て」（故松本貞雄家文書 4-23-8）

最後に、金属供出の様子を写した写真を 1 枚。これは松本氏の資料からではありませんが、幕張町役場前に大量に集められた金属類をみることができます。

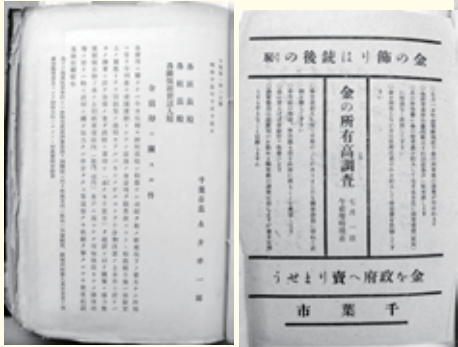
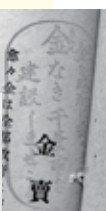


幕張町役場前の戦時供出風景（『絵でみる図でよむ千葉市図誌』下巻 p.360 VII-F、『千葉市史 近世近代篇』p.479 掲載）

金属供出に関しては、寺院の梵鐘などの供出が全国各地でできます。千葉県文書館所蔵の森川家文書には、重胤院で梵鐘が供出される際に鐘と「大東亜護国 応金属供出」と書かれた幟を並べた写真や、金属ではありませんが、「供木」に依拠するというで注連縄をはった大木と「祝 応供木 旧生実藩子爵森川家」と書かれた幟、そして住職らが写った記念写真も残されており、千葉市域でも行われていたことがわかります。

配給される物資も、数の少ないものは町内会でくじ引きとするほど切り詰めた生活のなか、なおさまざまものを供出した銃後の生活が、回覧から垣間見えるのです。

* 故松本貞雄氏資料：千葉市の戦災の記録に関わる資料群。故松本貞雄氏は元千葉市空襲を記録する会の主宰。



左より「金売却ニ関スル件」、「金の所有高調査」、「金売却要項」に捺された印（故松本貞雄家文書 5-1-4-1-78、5-1-4-2、5-1-4-1-69）

出張!!

紙上☆古文書講座

～基本の「き」をおさらいしよう～

古文書講座は敷居が高いかな…とお悩みの方。どうでもいいような、些細なテクニク知りたいな…とお考えのそこのアナタ。前回からずいぶん間があきましたが、今回は、「知っているとちょっと楽」な 2 つの基本の「き」をおさらいしましょう！

右も左もわからない??

…古文書を読み始めたときに、よく言われる言葉のひとつです（笑）

人の名前くらい読めるさ…って思って、古文書の最後に書かれた差出人、あれ？この人「右衛門」？「左衛門」？って思ったこと、ありませんか（なかなか無いかも）？

いやいや、右と左って、慣れてきてもちょーっと読みにくいんです。名前だと特に「わかるよね」でしっかり書かれないことも。

現在、右と左は小学校で最初の筆の入りが違うと教わりますが（教わるはずですが）、近世では、そこはフレキシブルなので…。

そこで覚え方としては

「右は横棒、左は縦棒」



…どうでしょう？これでなんとなく当てはまる…んじゃないかと（汗）

書き癖で、違うときもあります、ひとつの参考にしてみてくださいね！

*「左」はこう↑なることもまあります。

なんか似てるなあ

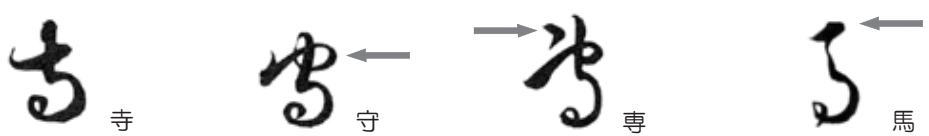
おや？

頻出なんだけど、「なんか似ていて読みづらいんだよねー」という文字の組み合わせ、いくつかありますね。

「数をこなして慣れろ！」というのはまあ、真実ではありますけれど、なんとかならないものか？

今回はそのうちの一組（4 文字ですけど）、寺と守と専と馬をおさらい。

こうして活字で並ぶと「どこがどう似るっていうの？」と思われるやもしれませんが、さあ、くずし字をみてみましょう。



…似てますねえ。とっても似ている。似ている!! 似ているんです!!!（基本は「寸」のあたりが似るんですね）

で、何故これらの文字が問題か？というと、文字自体もよく使われますが、旁として登場することも結構あるからなのです。

例えば「持」とか「傳」とかといった感じです。旁がそっくりです。



実はものすごくくずされてしまうと、これはもう偏を見て、存在する文字かどうか、前後をみて単語としてどうかを

考えていくしかないのです。ただし、それぞれ「あくまで原則の」特徴はあります（どれも絶対ではありません。）。

・「守」ならウ冠が残るので、右側が「くるっ」となる（矢印部分）。

・「専」なら左上の点がある。これはあまりはずすことがない（矢印部分）。

・「馬」なら横棒と縦棒がクロスしない（矢印部分）。

で、ちょっと番外として「埒」。

この旁、ぱっと見「守」…いや、

「専」？「寺」でもいけないことは

ないかもです。

でも実は、これは上の 4 つには入っていない（旁部分が単独で文字として成立していない）のです。

でもこの旁が本当に似ているんです、くずすと。

土偏に守…専…寺…ありません。だから形はと一っても似ていても、ここは「埒」と

読むべきなのです。「不埒」などの単語で出てきます。

…これは、残念ながら、慣れて覚えましょう（笑）

*あくまで基本です。どうしても判別のつかないこともあります。そのときは前後の内容で判断しましょう。

「馬」はこうなることもあります。そうするとちょっと「専」とも似てきます。

しかしなかなかどうしてむずかしい…